

熊野地区 防災対策マニュアル



平成 27 年 3 月

板橋区町会連合会熊野支部

板橋区危機管理室

はじめに

- 過去の震災では、地震後のご家族・ご近所の助け合いによって多くの命が救われており、**自助・共助の重要性**が明らかになっています。
- 本マニュアルは、自分や家族の身の安全を確保した後の、「**住民防災組織による応急活動（発災から72時間まで）**」とその**事前対策**について、熊野地区住民の熱心な話し合いによって作られたものです。



阪神・淡路大震災の救出の様子

目次

1. 「防災対策マニュアル」の考え方	2
(1) 「防災対策マニュアル」の目的	2
(2) マニュアルづくりの5つのステップ	2
(3) 本マニュアルの作成手順	4
2. 首都直下地震等の被害想定	5
(1) 東京都の被害想定	5
(2) 東京都の液状化予測	6
(3) 地震に関する地域危険度	7
(4) 板橋区洪水ハザードマップ	7
3. 熊野地区の地域特性	8
[地形・地盤][土地利用][建物属性][人口属性]	
4. 危険・資源マップ	11
(1) まち歩きの方法	11
(2) まち歩きの視点（例）	11
(3) 危険・資源マップ	12
5. 被災・対応シナリオ	14
(1) 被災・対応シナリオ（自助・共助）の考え方	14
(2) 熊野地区「被災・対応シナリオ（自助）」	16
(3) 熊野地区「被災・対応シナリオ（共助）」	18
①建物倒壊 ②建物火災 ③要援護者 ④道路閉塞	
6. 事前対策リスト	26
(1) 事前対策リスト（自助）の考え方	26
(2) 事前対策リスト（共助）の考え方	26
(3) 事前対策リスト（自助）	27
(4) 事前対策リスト（共助）	28
1) 建物倒壊 2) 建物火災 3) 要援護者 4) 道路閉塞	
おわりに	30
(1) 地区防災対策に関わる「論点」	30
(2) 本マニュアルの活用方法	30

1. 「防災対策マニュアル」の考え方

(1) 「防災対策マニュアル」の目的

「防災対策マニュアル」は、自助・共助による地域防災力を向上させ、わが地区の被害を軽減することを目的に作成します。

マニュアルをもとに地区住民が主体的に参加し、地区の災害時の危険や防災上の資源を把握し（防災マップの作成）、時系列での被災と対応の流れ（被災・対応シナリオ）やそれに必要な事前対策を具体的に検討します。

(2) マニュアルづくりの5つのステップ

ステップ1

わが地区の災害に備える「空間」をイメージする

「危険・資源マップ」をつくる



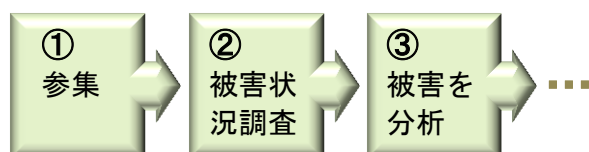
○災害時に、わが地区のどこにどのような被害が起こりうるのか（外力と地盤、建造物、生活・社会の関係性）、それに対処するための人やモノ等の資源がどこにあるのかを考えます。

○そのためには、わが地区の被害想定や地域特性に関する各種データを確認したり、実際にまち歩きをして、わが地区の危険・資源を自らが点検・整理し、わがまちオリジナルの防災マップ（「危険・資源マップ」）を作成することが大事です。

ステップ2

わが組織対応の「時間」をイメージする

「被災・対応シナリオ」をつくる

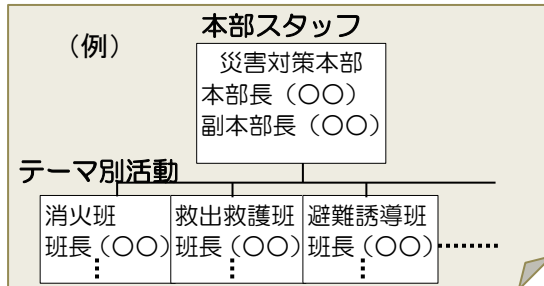


○被災と災害対応の流れを時間の流れに沿ってイメージすること、つまり、災害による被害がいつまでどのような形で続くのか、それへの対応をどのように行えばよいのかを考えます。

○災害対応の行動手順を、映画のシナリオのように時系列に展開していく、わが組織にとっての「被災・対応シナリオ」を作成します。

ステップ3

災害対応を担う「主体」をイメージする



○災害対応の主体とされる「自助・共助・公助」のうち、住民防災組織（共助）による災害時の役割と、それに応じた平常時の役割を考えます。

○平常時には、それぞれ消火や避難誘導等のテーマ別の活動について行動手順を習熟したり、情報や人員等の資源調達の準備をする、このような「やるべき対応」に応じた「組織体制」を考えておくことが大切です。

ステップ4

災害対応の「実効性」を確保する



○以上の災害対応の「実効性」を確保するため、災害時の限られた人や情報等の資源をいかに効率的に活用するか、その優先付けとそのための事前対策を考えます。

○災害時に任務を遂行できる「事前対策」として、人・モノ・情報・空間等の必要資源の準備を行っておくことが大切です。

ステップ5

災害対応の「実行性」を確保する



○以上の手順で、住民主体による「防災対策マニュアル」が出来上がります。

○しかし、「防災対策マニュアル」を作った終わりではありません。マニュアル作成の本当の目的は、「自助・共助による地域防災力を向上させ、わがまちの被害を軽減すること」です。

○したがって、このマニュアルで考えた「事前対策（必要資源の準備）」、とりわけ、「危険・資源マップ」や「被災・対応シナリオ」を活用した実践的な「防災訓練」（図上・実働）を行い、必要に応じてマニュアルを見直すこと、この繰り返しを習慣化することが大切です。

(3) 本マニュアルの作成手順

本マニュアルは、(1)の目的、(2)の5つのステップを踏まえ、熊野地区住民の主体的参加によって、平成26年度に全5回のワークショップを経て策定されました。全5回の開催概要、主な検討課題は下表のとおりです。なお、右欄は「5つのステップ」との関係を示します。



実施回・日	ワークショップ内容	5つのステップ
第1回 (2014/5/28)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「被害想定図」の作成 <ul style="list-style-type: none"> ○ 地区防災の考え方、対象地区の地域特性、地震に関する地域危険度、首都直下地震の被害想定、風水害の被害想定等を学習 ○ 上記の内容から、地区の被害イメージを検討・共有 	①わが町の災害に備える「空間」をイメージする
第2回 (2014/6/22)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「危険・資源マップ」の作成 <ul style="list-style-type: none"> ○ まち歩き準備（役割分担、準備物確認、被害想定、まち歩きの見点を参考に独自の視点を抽出、まち歩きルートの確認） ○ まち歩きで地区の危険と資源を点検し、マップに整理・共有 	
第3回 (2014/8/26)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「被災・対応シナリオ（共助）」の作成 <ul style="list-style-type: none"> ○ 「被災シナリオ」・「対応シナリオ（自助）」の考え方を学習 ○ 「危険・資源マップ」・「被災シナリオ」から、住民防災組織としての災害対応の課題とその行動手順を時系列の流れに沿って検討・共有 	②わが組織対応の「時間」をイメージする
第4回 (2014/10/10)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「事前対策リスト（共助）」の作成 <ul style="list-style-type: none"> ○ 「地区防災計画」・「業務継続計画」の考え方を学習 ○ 「被災・対応シナリオ（共助）」をもとに、とくに優先度の高い活動を具体化 ○ 上記を実施するために必要な事前対策（人・モノ・情報・空間等）を検討・共有 	
第5回 (2014/12/2)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「防災対策マニュアル」の検討 <ul style="list-style-type: none"> ○ 「防災対策マニュアル」と「防災マップ」のたたき台を検討 ○ 今後の地区防災対策の進め方を検討・共有（防災ビジョン、マニュアル活用方法の検討等） 	⑤災害対応の「実行性」を確保する
マニュアル策定後	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後の活動（例） <ul style="list-style-type: none"> ○ マニュアルの普及・啓発 ○ まち歩きと防災マップづくり ○ 防災訓練の企画、実施 ○ マニュアルの見直し ○ 組織体制の見直し ○ 関係機関や事業所との連携、等 	